

<牧師室から>

東京都は4月27日、新型コロナウイルスの感染者を新たに39人確認したと発表しました。新規感染者が1日あたりで50人を下回るのは3月30日(13人)以来で、ほぼ1カ月ぶりとのこと。一部のメディアでは、“今年のGW(ゴールデン・ウィーク)は、ガマン・ウィークだ”などと言われてもいますが、たしかに今が我慢のしどころなのかも知れません。「わたしはかつて祭を守る多くの人と共に群れをなして行き、喜びと感謝の歌をもって彼らを神の家に導いた。今これらの事を思い起して、わが魂をそそぎ出すのである。わが魂よ、何ゆえうなだれるのか。何ゆえわたしのうちに思いみだれるのか。神を待ち望め。わたしはなおわが助け、わが神なる主をほめたたえるであろう。」(詩篇42:4~5) キリストによって神礼拝に招かれた私たちは、誰よりもキリストご自身が我慢してくださっていることを思い起こしましょう。教会学校それぞれの分級の中心におられたキリストは、礼拝の中心におられたキリストは、大宮カフェなど諸集会の交わりのおられたキリストは、やがて私たちを再び呼び集めてくださるその時に向けて、今を耐え忍んでおられます。今後、感染者数の数値に上がり下がりがあっても、私たちは人知を越えた救いのご計画、救いの約束に耳を傾け続けましょう。キリストのもとで再会するその時に向け、キリストと共に待ち望みましょう。

<在宅礼拝にあたって>

できる限り日曜 11:00~12:00 に下記の在宅礼拝プログラムをご一緒しましょう。教会堂で共に礼拝を捧げて

いた時を思い起こし、励みにしていただきたいと思えます。

その時間が難しい方は、都合のつくときにささげてください結構です。

教会堂での礼拝の場合、御言葉や祈りは司会者のことば(声)を通して聞く、賛美歌は奏楽者のリードで会衆一同、歌うことによって捧げていますが、在宅の礼拝の場合は、以下を参考にして、夫々の工夫によってささげましょう。わからないことは、牧師にお尋ねください。

・「招詞」

招きのみ言葉です。この礼拝に招かれていることを感謝し、聖書のみ言葉に聴きましょう。

・「聖書」

御言葉をゆっくり味わいましょう。音読するなどの方法もおすすめです。

・「感謝と献金の時」

献金は、感謝と献身の表しとして捧げられるものです。1週間の感謝を祈りましょう。

・「賛美」

歌詞を読んで味わうなどでも結構です。ユーチューブに収録されている賛美に声をそろえるなどの方法も考えられます。

・「メッセージ」

「メッセージ要旨」をお読みください。

・「祈祷」メッセージから受けた恵みや、祈りの課題を含め示されたところを祈りましょう。

・「頌栄」

牧師の祝祷を受けることはできませんが、「ベネディクション」の賛美を通して主の祝福を受けましょう。

＜在宅礼拝プログラム＞

・招 詞	詩篇 68 篇 34 節
・賛 美	新生賛美歌 1 番 「聖なる聖なる聖なるかな」
・感謝と献金の時	
・主の祈り	
・聖 書	使徒行伝 1 章 3-11 節 (口語訳新約聖書 180 頁)
・メッセージ	「約束を待っているがよい」
・祈 祷	
・賛 美	新生讚美歌 86 番 「輝く日を仰ぐとき」
・頌 栄	新生讚美歌 679 「ベネディクション」
・黙 祷	

＜メッセージ要旨＞

大宮バプテスト教会の主日は教会学校でスタートします。聖書教育を通して各分級で分かち合いがなされます。その恵みの日々を思い起こしつつ、これからは聖書教育の該当箇所からもメッセージに取り組んでみようと思っています。本日の聖書教育該当箇所は使徒行伝の冒頭です。使徒行伝は復活の主の食卓が描かれた場面で幕を開けます。復活の主の食卓は、復活の主の約束を想起する場でした。それは、本日の聖書箇所によれば聖霊降臨の約束(5節)、および主の再臨の約束(11節)だったと考えられます。復活の主は聖霊として教会にミッション(使命)を与え、派遣します。初代教会は、キリストのミッションに応え、その時代、その社会においては滅びの民、落伍者と見なされていた人々のもとへと広く派遣されていきました。(8節) また再臨の主は“天を仰ぐ”者たちを迎える主です。生き甲斐、命の“より

どころ”を見失った無力な者たちを迎える救い主です。初代教会はこの後、使徒行伝7章末尾に描かれている初代教会最初の殉教者ステパノを皮切りに同胞のもとから排除され、世界各地へ散らされていきます。聖霊による派遣は初代教会にとって、世界各地で排除されし者たちがやがて再臨の主のもとへ呼び集められるという希望を証しする旅路だったのではないのでしょうか。

そのようにして復活の主の食卓は、食べ物飲み物を共有する場ではなく、主の約束の想起を共有する場として受けることができます。たとえばルカによる福音書24:30~32には復活の主の食卓について次のような描写があります。「一緒に食卓につかれたとき、パンを取り、祝福してさき、彼らに渡しておられるうちに、彼らの目が開けて、それがイエスであることがわかった。すると、み姿が見えなくなった。彼らは互に言った、『道々お話しになったとき、また聖書を説き明してくださったとき、お互の心が内に燃えたではないか。』」ここで復活の主はパンそのものを共有していません。復活の主が共有したのは、聖書の言葉の分かち合いでした。だとしたら今、私たち教会がいわゆる主の晩餐式を執り行うことができなくとも、教会学校の恵みを思い起こしつつ、共に聖書の言葉に聴くのであれば、復活の主の食卓はすでに私たちの前に開かれています。

聖書教育の本日該当箇所(p.38)には4節について、“人間ではなく、神さまのみ心が成り、み業がなされていく、それはただ「待つ」ことが最もふさわしいからではないのでしょうか”と記しています。さらにp.39(成人科)では、“「待つ」間、私たちが直接できることはありません。人間は、自分から動き、自分が何かをすることを求めがちですが、何もできることがない。また「待つ」ことは「相手次第」です。”と記されています。聖書の恵みは他者があってこそその恵み、すなわち関係性です。復活、聖霊降臨、再臨、すべてが関係性です。けれども単純に“相手次第”ということであると、自粛ムードが権威化されつつある昨今、感染源を誹謗中傷するため加速する犯人探しを容認し、各地で孤立が強いられる事態にも同調することになりかねません。福音は異なる人どうしが出会うための“相手優先”は喜んで、同調圧力に屈する“相手任せ”の風潮には抵抗します。福音は、ある出会いのために、他の出会いを控え、また後の出会いのために、今の出会いを控えます。すなわち選び取りの自由です。関係性の恵み、新たな出会いに向かう希望です。こうして今の自分個人の願望、能力、資質は「待つ」ことによって削ぎ落されていき、神(の御旨、みわざ)だけが残ります。人知を越えて切り開かれていく新たな出会いが現れます。

「待つ」に生きる今、私たちはすでに聖霊によるキリストの証人として、より多くの人々と出会っていく明日へと前進しています。目には見えなくとも、復活の主の食卓は着々と整えられ、キリストの明日に広がっています。主の約束を共に待ち望みましょう。今まで教会学校、礼拝などで分かち合ってきたキリストの希望を共に思い起こしましょう。

- ・日本バプテスト連盟 HP にバプテスト誌 4 月、5 月号が掲載されました。本誌が手元になくても在宅での分かち合いが可能となりました。感謝です。ぜひご活用ください。

HP アドレス https://www.bapren.jp/?joumu_cat=baptistnews

- ・日本バプテスト連盟 HP に聖書教育誌 4 月～6 月号が掲載されました。本誌が手元になくても在宅での教会学校の学びが可能となりました。感謝です。ぜひご活用ください。

HP アドレス <http://www.bapren.com/>

- ・日本バプテスト連盟宣教研究所 HP に「宣教ニュースレター」HP 限定号外、および「新型コロナウイルス感染拡大に伴うストレスに対処するための視点」が掲載されています。

HP アドレス http://senken-bap.com/category/news_letter/